

全学共通科目の2つの授業をピックアップし、授業の工夫や改善点等をレポートします。

※掲載している情報(授業科目・担当者名等)は2019年度の情報です。

教養科目群
日本語と社会と文化

学外でのグループワークを通して、身近な日本語を別の角度から考えてみる。

西郡 仁朗 教授
(人文社会学部 人間社会学科)

インバウンドに代表されるグローバル化により、分かりやすい日本語の重要性が高まっています。注目が集まるこの分野を指導する西郡先生に、その手法を聞いてみました。

「日本語と社会と文化」はどのような授業で、どのようなことを目標にしていますか？

私たちが普段何気なく使っている日本語。だからこそ、日本語を母語としない外国人が日本語のどのような部分に難解さを感じているのかに、私たちは気付きにくいともいえます。近年はインバウンド需要で日本の各都市を多くの外国人が訪れるようになりましたが、街なかの店舗の看板や道路標識などのサインは、彼らに理解しやすい内容になっているのでしょうか。この授業では日本語における難解な表現を平易なものへと変換し、外国人にとっても理解しやすい「やさしい日本語」とは何かなどを考えていきます。平易な言葉に置き換えた日本語は他の言語にも変換しやすいなど、さまざまなメリットがあり、社会のあらゆる分野で国際化が進む現代においてさらに重要度が増すと考えられます。

授業ではどのようなことに取り組み、どのような改善を行っていますか？

アクティブ・ラーニングとして、授業の中でグループワークを取り入れています。学生同士でグループを組んでもらい、大学近辺のショッピングモールやスーパーマーケット内の店舗の看板やサインボードなどにおける表現、つまり言語景観を調べてもらうのです。日本のサインボードには日本語、英語、中国語、韓国語の4言語が記されている場合が少なくありません。授業を履修している留学生にも表現が適切かどうかを聞くなどして、理解を深めていきます。この調査でまとめた内容はお店にもフィードバックするだけでなく、東京都庁で行われる会議での発表にも活用しています。その他にも、私が制作した言語景観に関するビデオを授業の前に各自で視聴してもらい、その内容について議論するといった反転授業も行っています。

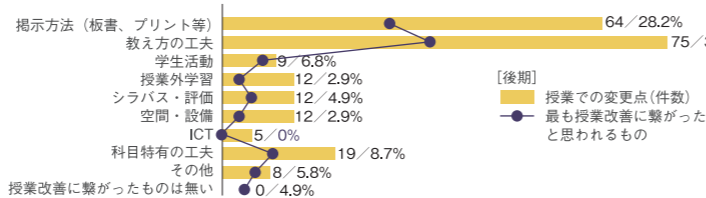
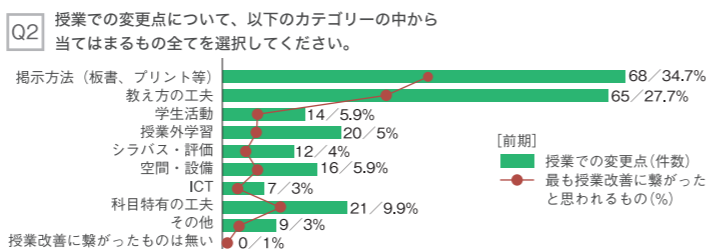
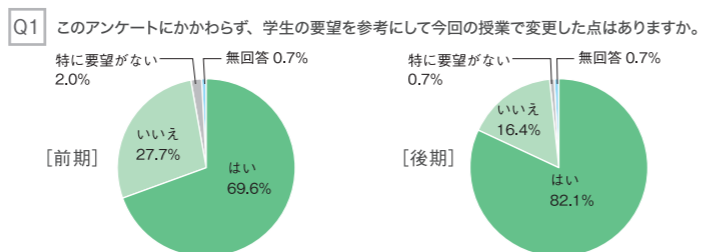


この授業で今後取り入れたいこと、また授業を履修する学生に伝えたいメッセージはありますか？

現在、日本のあらゆる分野に外国人材が参入しています。その中で、日本語独特の「空気を読む」ようなコミュニケーションが成立せず、トラブルになるという事例が起きています。たとえば外国人労働者が上司に休暇を申請する際、「明日休ませてほしいのですが」と願出するのではなく、「明日休みます」とだけ言ったことで心証を悪くする、といったことです。こうした問題を解消するため、外国人と日本人が一緒に演劇を行うことでお互いへの理解を深めるといった手法が、社会の中で取り入れられています。この手法は日本人同士でも有効なので、今後の授業で取り入れてみたいですね。私たちは日本語を自然に話せる分、意識的に日本語とは何かを考えることが、国際化が進むこれからの社会ではこれまで以上に重要になります。そうしたコミュニケーションの大切さを、この授業で学んでほしいですね。

教員アンケート結果

実施期間 前期2019年7月8日～26日 / 後期2020年1月6日～27日
授業改善アンケートと同時に実施した教員アンケートの結果を公表します。



学生と教員が教育のあり方について語り合う 学生懇談会レポート

より良い教育の提供に向けて、学生の代表と本学の教職員が本音で語り合う場である「学生懇談会」が毎年開催されているのをご存じですか？2019年度は「基礎ゼミナール」と「言語科目及び教養・基盤科目」に関することをテーマとして取り上げ、14名の学生代表に参加していただきました。ドリンクやお菓子などを摘みながらのリラックスした雰囲気の中、基礎ゼミナールを通じて学んだことや身に付いたこと、基礎ゼミナールの課題や要望等については、「実践英語のクラス編成のあり方、未修言語科目の履修に関すること、幅広い分野の学修に向けた教養・基盤科目のあり方などを中心に、学生と教員双方による活発な意見交換が行われました。当日学生の皆さんから寄せられた意見については、「授業改善アンケート」結果と同様に全学共通科目に関する課題を検討する教職員会議の場でも報告され、今後の方針等を検討する際の参考として活かされています。これからも継続的に「学生懇談会」を開催していく予定ですので、興味のある方はFD委員会事務局(教務課)までご連絡ください。



深い学びにつなげる [スタディプラス]

Study+

Vol.07
2020.SPRING

あなたの声で 授業が変わる!

教員インタビュー
授業の工夫・改善レポート

結果発表!
授業改善アンケート

学生と教員が教育のあり方について語り合う
学生懇談会レポート

巻頭言 大学での学びについて

2019年度FD委員 都市環境学部 和田 清美 教授



現代社会は予測不可能な時代に入っているとされています。そうした時代の変化に対応していくためには、専門的知識だけでなく、論理的思考力、的確な判断力、事象全体を見渡せる俯瞰力、表現力等の汎用力をもつことが求められます。そして何よりも重要なことは、これらの基礎にある「自ら考える力」です。大学での学びは、この「自ら考える力」を身に付けることにあり、それは皆さんが「主体的に学ぶ」ことにより達成されます。大学での「主体的な学び」の出発点は、「知」の面白さを知ることにあります。「知」の面白さは本学が提供する多様な授業から得ることが出来ます。本学では、授業の内容と方法について、授業改善アンケートをはじめとしてさまざまな「授業の改善のための組織的な取組み(=Faculty Development,以下FD活動)」を行い、改善に努めています。今後のFD活動の課題として、皆さんが何を学び、何を身に付けたのかを明確に示していくために「学修成果の把握・可視化」に取り組んでいくことにしています。是非、入学後の早い段階で、「知」の面白さを知っていただき、本学での「主体的な学び」とおし、専門的知識のみならず、「自ら考える力」を身に付けることを期待します。

教員インタビュー

授業の工夫・改善レポート



基礎科目群
実践英語Ⅰ

事前学習やクイズ形式の授業を通して、学生たちが英語の学びに主体的に。

中谷 早苗 准教授
(大学教育センター)

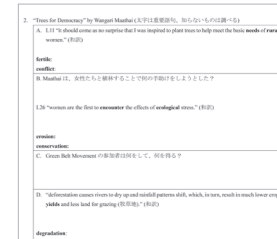
新1年生全員が、1年間をかけて履修する実践英語Ⅰ。多くの教員が同じ教科書で指導しますが、独自の工夫を凝らした中谷先生のクラスでは学生が前向きに取り組みました。どのような工夫を行ったのかを語ってもらいました。

「実践英語Ⅰ」はどのような授業で、どのようなことを目標にしていますか？

大学に入学した新1年生が全員履修する、必修科目としての英語であり、私だけでなく多くの教員が指導を行っています。共通のテキストがありそれを訳すという、高校までの英語教育の延長線上にあると思われがちな科目ですが、内容について学生同士で議論をするなど、大学での教育にふさわしい内容にしたいと考えています。1年生を対象としているのでグループワークの手法はもちろん、事前学習の習慣など、この授業を通して大学での学びに求められることを学んでもらいたいですね。ノートの取り方などを見ていても、本学の学生は非常に真面目に取り組んでいると感じます。学生たちが大学でさらに英語力を伸ばせるよう、手助けすることが目標です。

授業ではどのようなことに取り組み、どのような改善を行っていますか？

私の授業では毎回ワークシートを学生に課し、次の授業までに解いてもらうようにしています。出題内容は次回の授業で取り上げる教科書の範囲に沿ったものになっており、予習の意味合いが強いです。このワークシートを取り入れたことで、学生たちがその日の授業内容をある程度理解できているので、授業もスムーズに進んでいます。また教科書内容のエクササイズを学生同士で議論してもらうというグループワークも取り入れましたが、教室の雰囲気も盛り上がり、授業も活性化しました。前期が終了した時点で行った授業評価アンケートの結果でも「グループワークが楽しかった」という意見が見られたので、取り入れて良かったと思っています。また学生からは「TOEICの試験対策をしてほしい」という要望がありました。そこで後期からはTOEICで出題されるような設問を取り入れ、グループの中で回答を出し、ホワイトボードに書いて発表するといったクイズの手法を取り入れました。こうしたことで学生も能動的に授業に参加するようになったと感じています。



この授業で今後取り入れたいこと、また授業を履修する学生に伝えたいメッセージはありますか？

2020年度は1年生対象の実践英語Ⅰを担当しないのですが、この授業を通して英語だけでなく、「大学での学び方」も学んでほしいと思っています。ワークシートに関しても、事前学習の習慣を学生に身につけてほしいという想いから始めました。毎回のワークの内容を考えるのは簡単ではないのですが、やるだけの価値があったと感じています。この授業の2年生版である実践英語Ⅱに関しては次年度も引き続き担当します。Ⅰでは教科書の理解を深めることに重きを置いたのに対し、Ⅱでは教科書に書かれていることだけでなく、もう少し深いところまで議論を重ねていければいいですね。教科書を基盤としながらも、答えが一つではないような問題について学生同士でディスカッションするような授業を展開したいと思っています。

2019年度版

授業改善アンケート結果

実施期間 前期2019年7月8日～26日／後期2020年1月6日～27日

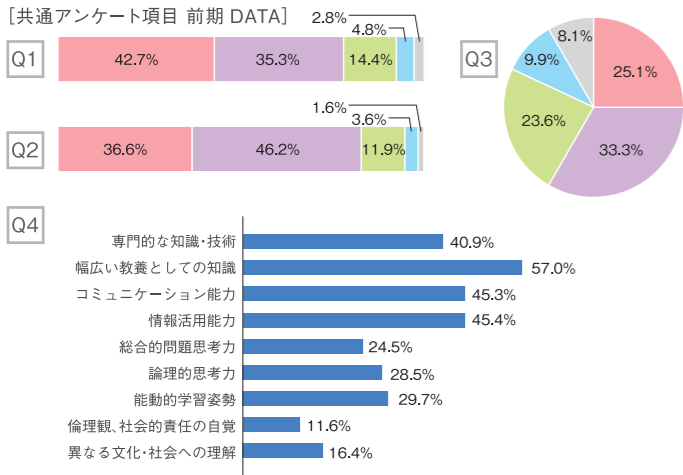
アンケート結果の詳細はFD委員会ホームページに掲載しています。
<https://www.comp.tmu.ac.jp/FD/>

【共通アンケート項目】

- Q1 この授業のシラバスは、授業を選択し、学習するうえで役立つ内容だった。
- Q2 授業全体を振り返って、あなたはこの授業を理解できた。

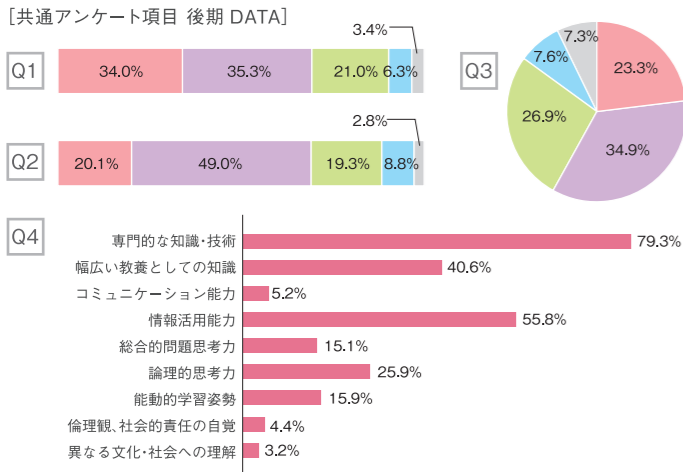
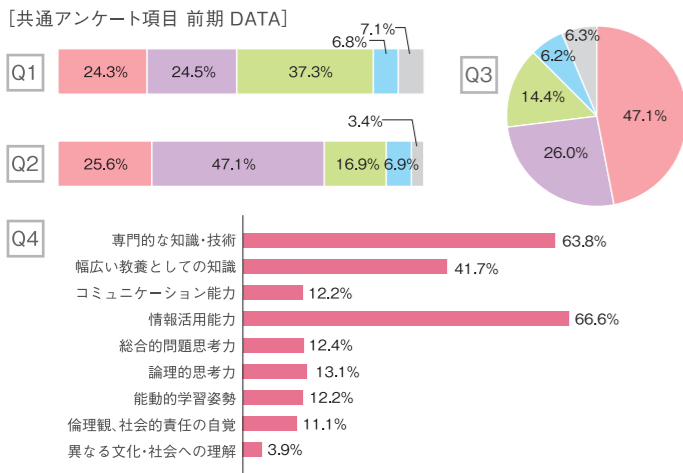
基礎ゼミナール

前期▶履修登録者数 1,668人:回収数 1,389人 回収率 83.3%/授業数 77クラス:実施数 67クラス 実施率 87.0%
※前期のみ実施



情報リテラシー実践科目

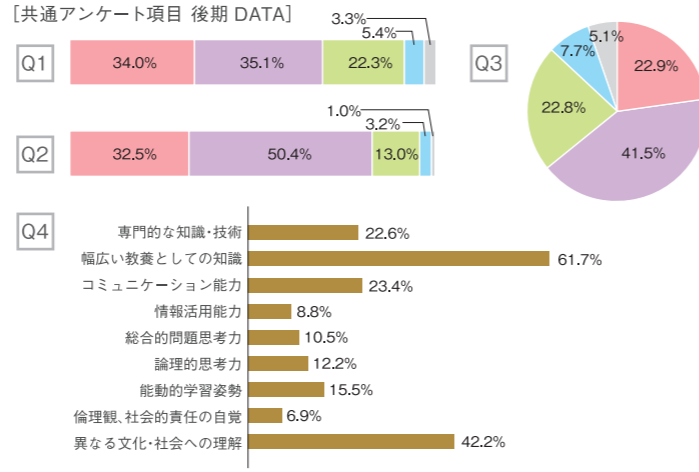
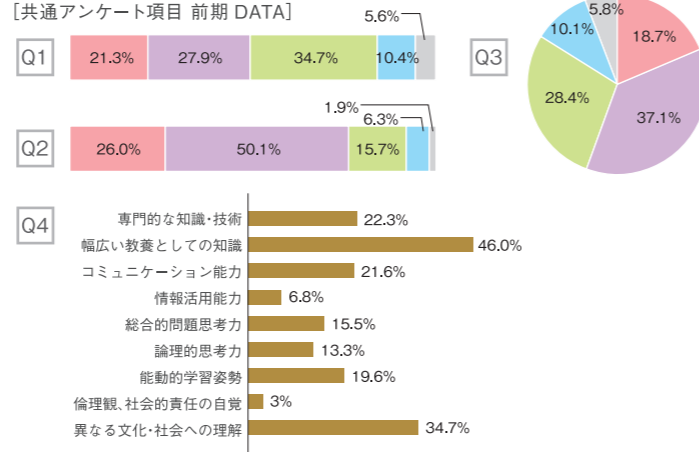
前期▶履修登録者数 1,671人:回収数 1,240人 回収率 74.2%/授業数 40クラス:実施数 39クラス 実施率 97.5%
後期▶履修登録者数 389人:回収数 254人 回収率 65.3%/授業数 22クラス:実施数 22クラス 実施率 100%
※前期は「情報リテラシー実践Ⅰ・Ⅱ」、後期は「情報リテラシー実践Ⅱ」で実施



- Q3 授業時間以外で一週間に平均どのくらい、この授業に関連した学習をしましたか？
(予習、復習、課題、試験勉強、この授業の理解をさらに深めるための自主学習を含む。)
- Q4 この授業で修得・向上できた能力を選択してください(複数回答可)。

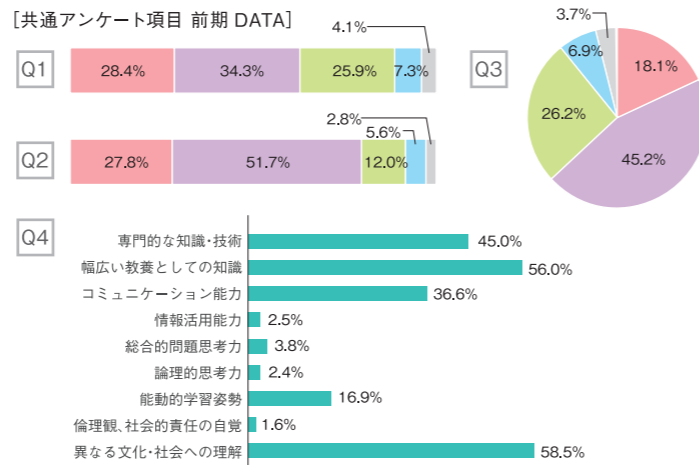
実践英語科目

前期▶履修登録者数 1,710人:回収数 1,585人 回収率 92.7%/授業数 92クラス:実施数 85クラス 実施率 92.4%
後期▶履修登録者数 1,558人:回収数 1,406人 回収率 90.2%/授業数 84クラス:実施数 81クラス 実施率 96.4%
※前期は「実践英語Ⅰa」、後期は「実践英語Ⅱb」で実施



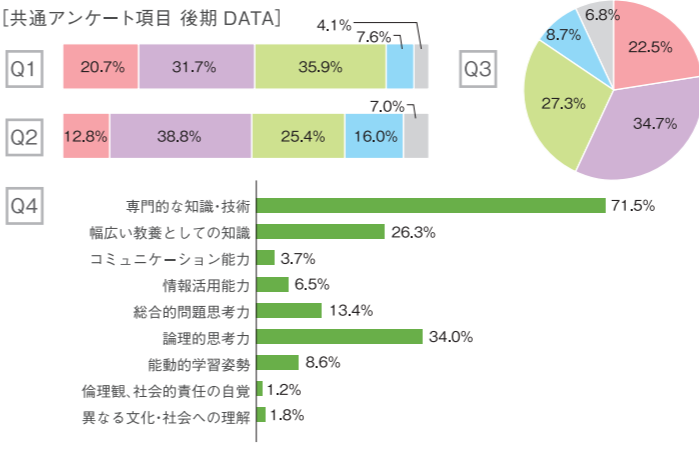
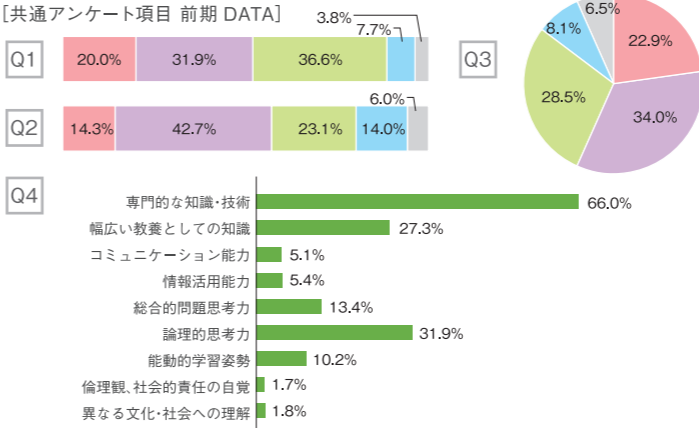
未修言語科目

後期▶履修登録者数 2,063人:回収数 1,445人 回収率 70.0%/授業数 106クラス:実施数 75クラス 実施率 70.8%
※後期のみ「ドイツ語Ⅰ」「フランス語Ⅰ」「中国語Ⅰ」「朝鮮語Ⅰ」で実施



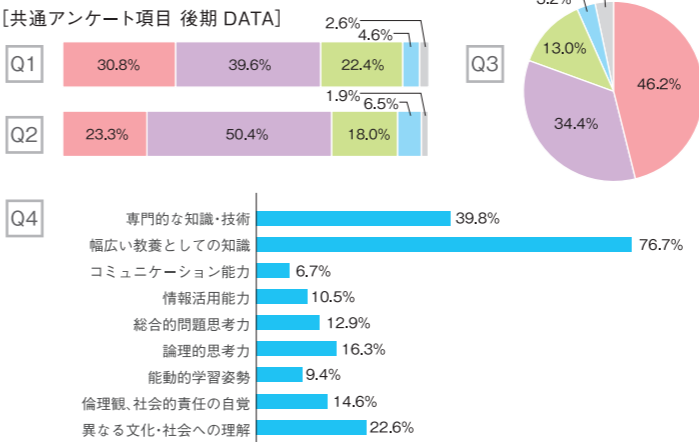
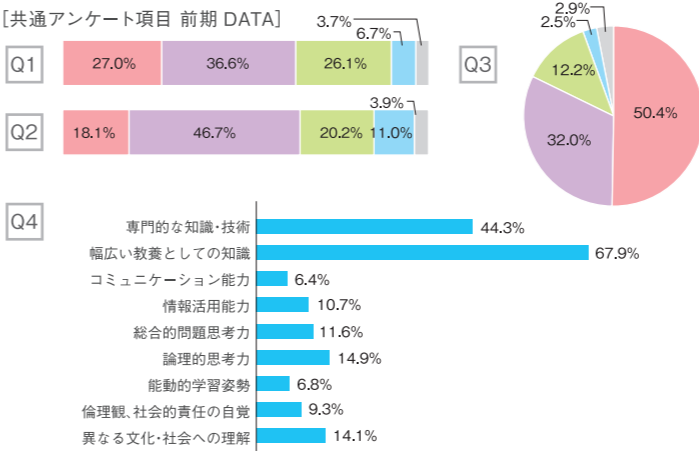
理系共通基礎科目

前期▶履修登録者数 3,861人:回収数 3,355人 回収率 86.9%/授業数 55クラス:実施数 49クラス 実施率 89.1%
後期▶履修登録者数 3,536人:回収数 2,597人 回収率 73.4%/授業数 55クラス:実施数 47クラス 実施率 85.5%



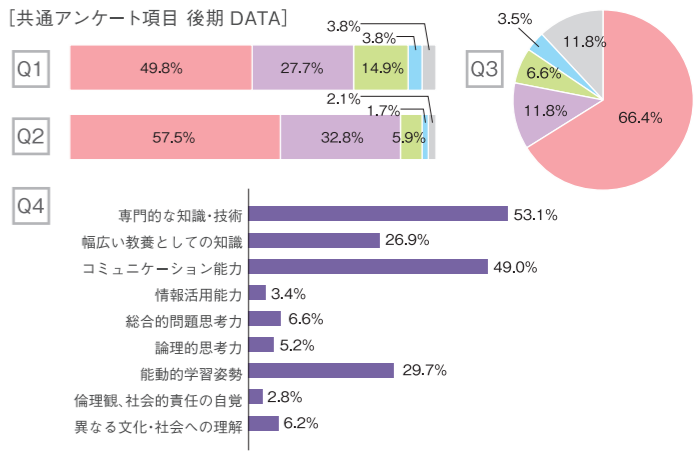
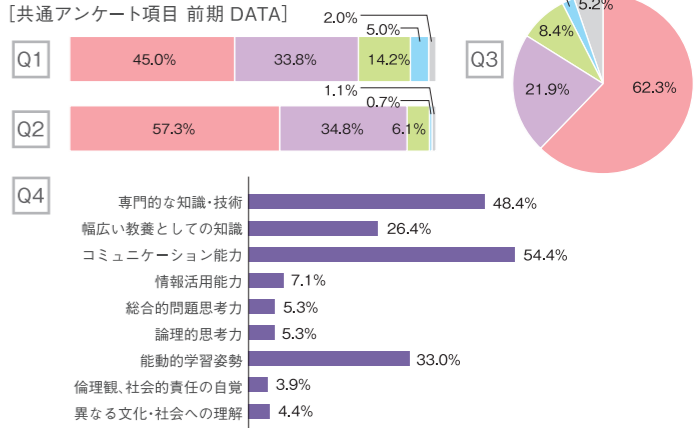
教養科目群・基盤科目群・キャリア教育科目

前期▶履修登録者数 10,932人:回収数 7,485人 回収率 68.5%/授業数 78クラス:実施数 65クラス 実施率 83.3%
後期▶履修登録者数 8,150人:回収数 5,738人 回収率 70.4%/授業数 67クラス:実施数 57クラス 実施率 85.1%



保健体育科目

前期▶履修登録者数 581人:回収数 549人 回収率 94.5%/授業数 27クラス:実施数 27クラス 実施率 100.0%
後期▶履修登録者数 340人:回収数 334人 回収率 98.2%/授業数 20クラス:実施数 19クラス 実施率 95.0%



主な意見と改善の取組み

学生 こんな意見・感想がありました(2018年度アンケートから)

- もう少しみんなでディスカッションをする時間を使えばもっと考察が深まると思う。
- グループワークを行う際、メンバーは初めから固定より色々な人と関わった方が良いと思う。
- ノートにメモを取るにはスライドの進み方が速いので改善して欲しい。
- 予習・復習のためにレジュメをkibacoにアップデートして欲しい。

教員 こんな改善・対応を行いました(2019年度の改善)

- グループディスカッションの時間をより多く確保することで、さらに高度なプレゼン報告が数多く見受けられた。
- 学生自らが取り組みたいテーマを主としてグループ分けを実施したところ、班内で取り組まない学生が減り、全体的に活発になった。
- スライド送りの速さ、マイクの音量など、大教室・大人数授業での配慮事項の確認をリアクションペーパーを通して行った。
- 昨年度の授業では資料を印刷して配布していたが、学生からの意見を聞いてkibacoでのデータ配布に変更した。細かい処理についても指導することができたので、授業改善の役に立った。

授業改善アンケートの詳細やFDのトピックスは
東京都立大学FDウェブサイトでも紹介！

アンケート集計グラフのほか、『Study+』のバックナンバーや
セミナーの報告など、さまざまな情報を掲載しています。

<https://www.comp.tmu.ac.jp/FD/>

スマホは
こちらから

